

• (1) 1st Publication No. : JP (A) 7-187268
(43) 1st Application Date : July 25, 1995
(21) Application No. : H5-349296
(22) Application Date : December 28, 1993
(51) IPC : B65D 85/00, A63B 47/00, B65D 81/20
(71) Applicant : Bridgestone Sports K.K.
(72) Inventor : Taku KONDO
(74) Attorney : Kazuo KUMADA
- Request for examination : No
- Number of claims : 9 (All 4 pages)

[Title of the Invention]

A PACKAGE OF SPHERICAL OBJECT

[ABSTRACT]

PURPOSE : To prevent a package from becoming bulky, and eliminate the discarding problem of an empty can or empty box by a method wherein spherical objects are arranged in a packaging material made of a heat-shrinkable film, and the heat-shrinkable film is shrunk by heating to package the spherical objects.

[CLAIM]

1. A package of spherical object which is characterized in that spherical object is packaged by heat-shrinkable film.

4. A package of spherical object which is characterized in that ;
the plural of spherical objects are arranged in a line or in lines in packaging material
made of heat-shrinkable film, and said plural of spherical objects are tightly packaged
by shrunk packaging material by heating and shrinking said packaging material.

note : claims 2, 3 and 5 to 9 are all sub-claims.

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-187268

(43) 公開日 平成7年(1995)7月25日

(51) Int. Cl. *	識別記号	序内整理番号	F 1	技術表示箇所
B 65 D 85/00	G	0330-3E		
A 63 B 47/00	B			
B 65 D 81/20	C			

審査請求 未請求 請求項の数 9 FD (全 4 頁)

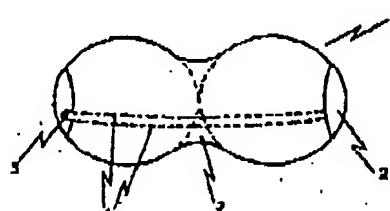
(21) 出願番号	特願平5-349296	(71) 出願人	592014104 ブリヂストンスポーツ株式会社 東京都千代田区神田東松下町45番地
(22) 出願日	平成5年(1993)12月28日	(72) 発明者	辻 茂 埼玉県秩父市上町3-23-40 エスボーラ B-102
		(72) 発明者	家入 秀俊 東京都小平市小川東町3-4-7-305
		(73) 発明者	山田 忠利 東京都三鷹市中原4-26-5
		(74) 代理人	弁理士 熊田 和生

(54) [発明の名称] 球状物包装体

(57) [要約]

【構成】 この出願発明は、球状物、とくに、テニスボール、ゴルフボール等が熱収縮性フィルムによって固定されている球状物包装体に関する。

【効果】 この出願発明は、球状物、とくに、テニスボール、ゴルフボール等に熱収縮性の包装体を接着した包装体であるので、目的に応じて多種の包装体を安価に製造することができ、接着剤を使用していないので、使用後に包装体を球状物から容易に除去することができる。また、球状物による収納による差があるので、予め収納を考慮したデザインによりオリジナル商品を創造することができる。



(3)

特開平7-187268

3

熱収縮性の包装材をかぶせた後、熱処理することにより、包装材を熱収縮させて球状体に密着させるものであるが、熱処理は、包装される球状体に影響がなければどのような温度でもよい。例えば、ポリ塩化ビニル製包装材の場合には、80~180℃、好ましくは100~150℃で、熱処理時間は1~30秒、ポリエチレン製包装材の場合には、140~200℃で行うものであって、好ましくは165~180℃であり、ポリプロピレン製包装材の場合には100~150℃で、熱処理時間は1~30秒であり、また、熱可塑性ポリエチルおよびテレフタール酸系のコポリエチル製熱収縮性包装材の場合には、60~95℃で、熱処理時間は1~30秒で行うことが好ましい。特にテニスボールを包装する場合は、包装材としてポリ塩化ビニルフィルムを用い、熱処理温度100~150℃、好ましくは、110~150℃で熱処理時間7~15秒で包装材を収縮させる。また、ゴルフボールを包装する場合は、包装材として、たとえば、熱可塑性ポリエチルおよびテレフタール酸系のコポリエチル製熱収縮性フィルムを用い、好ましくは熱処理温度60~80℃、より好ましくは70℃で、10~30秒程度の処理時間で包装材を収縮させる。なお、一般にゴルフボール材(カバー材)には熱可塑性樹脂が使用されるので、比較的低温で大きく収縮する包装材を選ぶのが好ましい。

[0008] 包装材3は、接着剤を使用していないので、使用後に容易に包装材を除去することができる。また、包装材を使用後に除去しやすいように、予め包装材にミシン目を入れたり、ブルタブ部を設けておくことが好ましい。このようにすることにより、包装材を容易に除去して球状物を取り出すことができる。この出願発明の包装体は、通常の販売品としても好適であるが、オリジナルデザインを包装材3に付与するのが容易であるので、スポーツ大会の賞品ギフト、オリジナルグッズ等として好適に用いることができる。また、熱収縮性フィルムの収縮割合に合わせて、大きく収縮する部分、中々らいに収縮する部分、小さく収縮する部分を前提にデザインすることにより、独特の商品とすることができる。つぎに、この出願発明を実施例により具体的に説明する。

[0010]

[実施例]

実施例1

4

プレッシャレステニスボール2の外周に、収縮後の状態を考慮した印刷を行い、ミシン目4およびブルタブ5のついた、ポリ塩化ビニル製熱収縮性フィルムの包装材3を重ね重し、図2に示すように、加熱装置(シーリングカーナー)により150℃の温風で加熱し、熱収縮性フィルムの包装材3を収縮させ、図1に示す包装体を製造した。熱収縮性フィルムの包装材は、ぴったりとテニスボール2に密着された。このテニスボールは、ブルタブを引っ張ることにより、ミシン目に沿って包装材を引き裂くことができ、簡単にテニスボールを取り出すことができた。

[0011] 実施例2

ゴルフボールの外周に、所望の印刷を施した熱可塑性ポリエチルおよびテレフタール酸系のコポリエチル製熱収縮性フィルムの包装材を配置し、実施例1と同様の装置により70℃の温風で熱収縮性フィルムの包装材を収縮させ、ゴルフボール包装体を製造した。熱収縮性フィルムの包装材は、ぴったりとゴルフボールに密着した。

[0012]

【発明の効果】この出願発明の包装体は、包装材料が熱収縮性のフィルムのみであるので、安価であり、包装される球状物に密着しているので離はらず、空き缶、空き箱の処理の問題が生じない。また、得られた包装体自体はポールが離別した形状となるばあいには、包装体上に形状に合った種々のデザインをすることができ、この出願発明のボール包装体特有のバラエティに富んだデザイン性が得られる。球状物の一部が露出している場合には、内容物がわかり、また、内容物と包装材とを一体化したデザインによる効果も期待できる。

[図面の簡単な説明]

(図1) この出願発明のテニスボール包装体

(図2) この出願発明のテニスボール包装体の製造工程

(図3) この出願発明の球状体と包装材との関係を示す図

[符号の説明]

1 球状物包装体

2 テニスボール

3 包装材

4 ミシン目

5 ブルタブ

6 シューリングカーナー

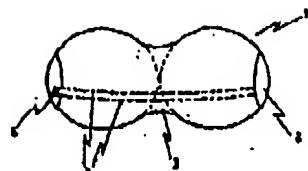
7 コンペア

[0013]

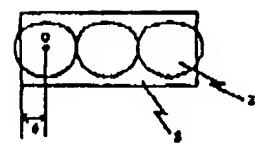
(4)

特開平7-187268

〔図1〕



〔図3〕



〔図2〕

